

## 地方独立行政法人大阪府立病院機構 平成 18 事業年度の業務実績に関する評価結果（たたき台）についての意見と修正点

区分	「たたき台」に対する意見等	修正した内容
2 全体評価	○わかりづらい。記載に重複がみられる。	○(1)の評価結果と判断理由が、今回の評価結果の概要となるよう記載を工夫。委員会コメントを簡潔に記載。 ○重点的な取組み等を簡潔に記載。
3-1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上	○病床利用率の向上については、収益要素ではあるものの、在院日数が短くなる中で、入院患者、退院患者は増加し、また、診療単価も向上していることは評価できることから、Ⅲ評価とされた。  ○呼吸器・アレルギー医療センターの医療施策の実施機関としての役割については、政策医療で一定の役割を果たしているものの、参考指標が前年度を下回っており、今後の取組みに期待を込めて自己評価Ⅱを妥当とした。	○6 ページの小項目評価がⅡであった項目から削除し、参考資料の小項目評価の 19 番の項目に、次のとおりコメントを記載。 「○病床利用率は、一病院を除き目標値に達していないが、近年平均在院日数が短くなる中で、概ね新入院患者数、退院患者数は増加し、診療単価は向上しており、その取組み努力が認められることから、委員会評価としてはⅢが妥当であると判断した。 ○今後とも効率的な病床運営に努め、医療サービスの効果的な提供と収益確保に努められたい。」  ○6 ページの小項目評価がⅡであった項目について、次のように記載。 「評価に当たっては、数値のみで判断するものではないが、結核患者が減少する中で、引き続き呼吸器・アレルギーに関する拠点病院としての役割を積極的に果たしていくことが必要との観点から、参考指標の実績が前年度と比べて減少したことを考慮した自己評価Ⅱは妥当と考える。今後、呼吸器・アレルギーに関する拠点病院としての役割を一層果たすとともに、取組内容を分かりやすく表す参考指標等について工夫されたい。」